

組織目標評価報告書(平成30年度)

8

部局名:

薬学部

部局長名:

三好 伸一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①志願者確保に向けて:薬学部教員が入試説明会を開催する戦略的高校訪問を実施する。</p> <p>②入学者選抜方法の検討:大学入試制度改革が予定されている2021年度入試以降の入学者選抜の実施方法について、「学力の3要素」の評価をはじめとする改革方針をふまえ、検討する。</p> <p>2. 教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <p>①教員の教授法の向上を目指し、授業撮像データを基に授業参観を励行し、全教員のピアレビューを目指す。教員のインセンティブとして、ベストクラス制度の充実を図る。今年度は、2020年度に予定されている第三者評価(薬学教育評価機構)に向けての評価書作成の前年度にあたることから、確実な教育エビデンスの収集にあたる。</p> <p>②各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校など)の学習・単位修得状況を把握し役立てることで、学生支援体制を強化する。</p> <p>3. 教育方法・内容について</p> <p>①学生の予復習および公欠時の補充講義として有意義な授業の撮像データを更に増加させる。60分4学期制で生じた専門教育科目カリキュラムの不備を改善するため、平成31年度入学生用の新カリキュラムを立案する。</p> <p>②成均館大学薬学校(韓国)へのキャンパスアジア事業短期派遣プログラム「短期医療応用コース(薬)(成均館)」を正規授業科目(2単位)として開講・実施し、薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目とする。</p> <p>③医療系キャンパスとして合同で企画するハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本製薬企業の見学、およびミャンマーでの合同医療体験を組んだ「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」を実施する。</p> <p>④サン・カルロス大学(フィリピン)への短期派遣プログラムの開発に向け、協議を進める。</p> <p>⑤薬学部(創薬科学科)に 外国人留学生1名を受入れる。</p> <p>⑥外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館) 受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)学生6名(大学院学生を含む)を受け入れ、薬学部の外国人短期研修生受入プログラムとしての修了証の発行をする。</p> <p>4. 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <p>①平成29年度に実施した大学院入学試験(4年制)および薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについての方法を検証・改善する。</p>	<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①志願者確保に向けて:平成29年度に実施した希望アンケートに基づき、近畿地方および山口県の計11校の高等学校に対し、薬学部教員が入試説明会を開催する戦略的高校訪問を実施した。</p> <p>②入学者選抜方法の検討:入試委員会に加え、入学者選抜方法について検討する委員会横断ワーキンググループを構成し、「学力の3要素」の評価をはじめとする改革方針をふまえ、2021年度入試において課す教科・科目を決定するとともに、具体的な実施内容の検討を行った。</p> <p>2. 教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <p>①教員の教授法の向上を目指し、授業撮像データを基に全教員のピアレビューを目指した。薬学部独自の授業評価アンケートを実施し、ベストクラス制度の充実を図った。今年度が、2020年度に受審する第2期薬学教育第三者評価に向けた自己点検・評価書作成の前年度にあたることから、確実な教育エビデンスの収集にあたった。</p> <p>②各種サポートが必要と思われる学生(病気、障害、不登校など)をピックアップした。対象学生には学生総合支援委員会の委員を担当教員として選定し、担任を加えた複数教員でのフォローアップ体制を確立することで、学生支援体制の強化を図った。</p> <p>3. 教育方法・内容について</p> <p>①学生の予復習および公欠時の補充講義として有意義な授業の撮像データの登録科目数を増加させた。60分4学期制で生じた専門教育科目カリキュラムの不備を改善するため、2019年度入学生用の新カリキュラムを立案し、卒業・進級単位の改訂を含む関連規定や制度の見直しをした。</p> <p>②成均館大学薬学校(韓国)へのキャンパスアジア事業短期派遣プログラム「短期医療応用コース(薬)(成均館)」を正規授業科目(2単位)として開講・実施し、薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目とした。学生6名を派遣した。</p> <p>③新規に医療系キャンパスとして合同で企画するハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本製薬企業の見学、およびミャンマーでの合同医療体験を組んだ「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」を実施し、学生2名を派遣した。</p> <p>④新規にサン・カルロス大学(フィリピン)との相互短期派遣・受入プログラムを実施した(派遣5名、受入4名)。</p> <p>⑤薬学部(創薬科学科)への 外国人留学生の受け入れについては、1名が私費外国人留学生特別入試で合格となったが、入学者はなかった。</p> <p>⑥外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館) 受入プログラムを実施し、学生6名を受け入れた。</p> <p>4. 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <p>①平成29年度に実施した大学院入学試験(4年制)および薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについての方法を検証した。</p>
①-2 年度計画との関連	①-2 大学全体への貢献
<p>・国際共同による教育の状況について</p> <p>○何れも本学が定める年度計画に掲げる「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」、「海外大学と更に関係を深め、教職員、学生の海外派遣と受け入れを組織的に行う【17-1】」、「(医療系)多職種連携教育をはじめとする分野横断型人材育成プログラムの開発【17-3】」に向けた目標である。</p> <p>・外国人留学生の受入状況について</p> <p>○本学が定める年度計画に掲げる「年間の外国人留学生受入れ数1,500人に拡大する(52②)」に向けた目標である。</p>	<p>・国際共同による教育の状況について</p> <p>国際共同による教育として以下の①～④を実施したが、これらは本学が年度計画に掲げる「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」、「海外大学と更に関係を深め、教職員、学生の海外派遣と受け入れを組織的に行う【17-1】」、「(医療系)多職種連携教育をはじめとする分野横断型人材育成プログラムの開発【17-3】」に向けた目標と合致する。</p> <p>①成均館大学薬学校(韓国)へのキャンパスアジア事業短期派遣プログラム「短期医療応用コース(薬)(成均館)」を正規授業科目(2単位)として開講・実施し、薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目とした。平成30年度は、学生6名を派遣した。</p> <p>②医療系キャンパスとして合同で企画するハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本製薬企業の見学、およびミャンマーでの合同医療体験を組んだ「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」を実施し、学生2名を派遣した。</p> <p>③サン・カルロス大学(フィリピン)との相互短期派遣・受入プログラムを実施し、学生5名を派遣した。</p> <p>・外国人留学生の受け入れ状況について</p> <p>外国人留学生の受け入れとして以下の①と②を実施したが、それらは本学が年度計画に掲げる「年間の外国人留学生受入れ数1,500人に拡大する(52②)」に向けた目標値に含まれる。</p> <p>①サン・カルロス大学(フィリピン)との相互短期派遣・受入プログラムを実施し、学生4名を受け入れた。</p> <p>②外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館) 受入プログラムを実施し、学生6名を受け入れた。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①志願者倍率(目標:薬学科4倍、創薬科学科2.5倍)</p> <p>2. 教育の実施体制</p> <p>3. 教育方法・内容</p> <p>①外国人留学生の受入(目標:1名)・日本人学生の海外派遣数(目標:5名)</p> <p>②国際共同によるプログラム実施数(目標:2プログラム)</p> <p>4. 教育の成果</p> <p>①4年制における大学院進学率(目標:80%)</p> <p>②6年制の薬剤師国家試験合格率(目標:85%)、就職率(目標:90%)</p>	<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①一般入試における志願者倍率は、薬学科5.1倍、創薬科学科2.8倍であり、両学科ともに目標を上回った。</p> <p>2. 教育の実施体制</p> <p>教育の根幹となる3つのポリシーについて検証し、見直しを行った。</p> <p>3. 教育方法・内容</p> <p>①外国人留学生の受入目標(1名)は達成できなかった。今後も目標を継続する。ただし、短期では9名を受け入れた。日本人学生の海外派遣数は13名であり、目標(5名)は十分に達成できた。資金確保に向けた申請を継続する。</p> <p>②国際共同によるプログラム実施数は4プログラムであり、目標(2プログラム)は十分に達成できた。資金確保に向けた申請を継続する。</p> <p>4. 教育の成果</p> <p>①4年制における大学院進学率は86.4%であり、目標(80%)を達成できた。</p> <p>②6年制の薬剤師国家試験合格率は90.7%であり、目標(85%)を達成できた。また、就職率も90.7%であり、目標(90%)を達成できた。</p>
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載	
②-2 年度計画との関連	②-2 大学全体への貢献
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況

③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 ・地域社会との連携、社会貢献について ○薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。 ・国際交流・協力について ○成均館大学(韓国)との連携を更に深めると共に、他のアジアの有力大学・研究機関等との連携を進め、国際交流を推進する。 ・その他 ○地域の職能団体等と連携した卒前・卒後教育の実施を推進する。	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・地域社会との連携、社会貢献について ○薬剤師及び一般社会人等を対象とした薬学部公開講座、高校生及び一般社会人を対象とした公開講演会を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努めた。 ・国際交流・協力について アジアの有力大学・研究機関等との連携の推進に努め、以下の国際交流プログラムを実施し、目標を十分に達成した。 ○成均館大学(韓国)との学生の相互短期派遣・受入プログラムを継続実施した(派遣6名、受入6名)。この派遣プログラムは「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」の一環として実施した。 ○サン・カルロス大学(フィリピン)との学生の相互短期派遣・受入プログラムを新規実施した(派遣5名、受入4名)。 ○医療系多職種連携海外(ベトナム・ミャンマー)短期派遣プログラムを新規に実施した。薬学部の学生2名が参加し、医学部(医学科・保健学科)・歯学部と合同で実施した。 ・その他 ホームカミングデイ2018において、薬用植物園の一般公開を行うとともに、薬学同窓生交流会を実施した。
③-2 年度計画との関連 薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座等の実施は、本学が定める年度計画に掲げる「本学が主体性を持った社会貢献事業を多面的に展開するため、岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する(47②)」にも寄与するものである。また、アジア等の有力大学・研究機関等との連携や協力は、岡山大学が掲げるSDGs推進の根幹となる事業であり、何れも本学が定める年度計画に掲げる、4 その他の目標を達成するための措置(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置及び「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」に関連するものである。	③-2 大学全体への貢献 ・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座や公開講演会の実施は、本学が年度計画に掲げる「本学が主体性を持った社会貢献事業を多面的に展開するため、岡山大学の研究情報の提供、学術的な知を易しく紹介する公開講座を開催する(47②)」に寄与するものである。 ・③-1に示すアジア等の有力大学・研究機関等との連携や協力は、岡山大学が掲げるSDGs推進の根幹となる事業であり、本学の年度計画、4 その他の目標を達成するための措置(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置及び「短期派遣プログラムの単位化を整備【6-1】」に関連するものである。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ○公開講演会等の実施状況 ○地域貢献・国際貢献(SDGs)への貢献の状況	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ○公開講演会等の実施状況 ・薬剤師及び一般社会人等を対象とした公開講座には76名、高校生及び一般を対象とした公開講演会には25名の参加者を得た。 ・岡山大学附属中学の大学訪問では、13名の中学生の訪問を得た。 ・ホームカミングデー2018において実施した薬学同窓生交流会には、学内外あわせて約20名の参加者を得た。 ○地域貢献・国際貢献(SDGs)への貢献の状況 ・③-1に示す目標を達成するために、キャンパスアジア事業(成均館大学との学生派遣・受入事業)の支援を得た。また、新規に高度先導的薬剤師養成事業(サン・カルロス大学への学生派遣事業)、さくらサイエンスプラン(サン・カルロス大学の学生の受入事業)及びJASSO奨学金(医療系多職種連携海外派遣事業)を申請し、いずれも採択されたため、目標を十分に達成できた。
④管理運営領域	
④-1 目標 ・部局運営体制の改善強化について 本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報を継続的に発信することを推進する。 ・部局組織の活性化について 本学部の組織を活性化し、継続的かつ適切な部局運営を行うため、優秀な人材を積極的に確保するとともに、主要な委員会等の委員として、若手教員や新任教員等を適切に配置すること等を目指す。 ・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について 本学部では女性教員の割合は比較的高いが、ダイバーシティ推進のため、女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。 ・効率的・戦略的な予算配分・執行について 省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。 ・安全衛生に対する配慮について 適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。 ・施設整備の推進について 安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。 ・法令遵守の徹底について 情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。 ・その他 国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を進める。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・部局運営体制の改善強化について 本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報の継続的な発信を行った。 ・部局組織の活性化について 本学部の組織を活性化し、継続的かつ適切な部局運営を行うため、本学部の各種委員会について、内規の全面的な見直しと整備を行うとともに、若手教員や新任教員を主要な委員会の委員として適切に配置した。また優秀な若手人材の積極的な確保にも務めた。 ・ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について ダイバーシティ推進のため、女性教員のさらなる採用や昇進、次世代支援育成等の可能性に関して検討した。 ・効率的・戦略的な予算配分・執行について 全ての教職員に対して省エネ意識を喚起することにより、経費の節減を図った。また各委員会の経費については、実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。 ・安全衛生に対する配慮について 適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。 ・施設整備の推進について 安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進した。 ・法令遵守の徹底について 情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステムによる再教育と周知を行った。 ・その他 国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学、サン・カルロス大学との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を推進した。学生の国際交流を継続するためには、資金の確保が重要であることから、可能性のある各種外部資金について検討した。
④-2 年度計画との関連 国際交流の活性化、組織運営の改善、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等、全学の組織目標に合致したものと考える。	④-2 大学全体への貢献 ④-1に示す国際交流の活性化、組織運営の改善、効果的な予算執行、法令遵守、安全衛生に対する取組等は、いずれも全学の組織目標に合致したものである。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 法令遵守の徹底と安全衛生の推進(コンプライアンス・安全衛生に係る研修を全教職員の受講を目指す。)	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 コンプライアンスや安全衛生等に係る研修のうち、担当理事や担当全学委員によるものは、全ての教職員を対象に実施した。また、webシステムによるeラーニングについては受講の徹底を図った。
【総括記述欄】 教育、研究、社会貢献、いずれの領域についても当初の目標を良好に達成できたと評価している。次年度については、教育の領域では、博士課程及び博士後期課程への進学率を向上させる方策を検討する。その一つとして、今年度末に協定を締結する国立医薬品食品衛生研究所との連携大学院を実質化させる。研究の領域では、今年度に選定された重点研究分野の教員を中核として、大型プロジェクトや大型研究費の獲得を目指す。社会貢献の領域では、引き続き公開講座等を実施し、薬学に関する最新情報を薬剤師や一般社会人等に提供するとともに、アジア圏の有力大学を中心とした国際交流をさらに深化させることに努める。	